

## 知的障害部門小学部 年「自立活動」 学習指導案

日 時：平成25年11月7日（木）13：00～13：55

場 所：体育館

指導者：藤嶋 茂世

対象児：知的障害部門小学部 年

1 題材名 ①気持ちを言葉で伝えよう ②身体をしっかり動かそう

2 題材について

(1) 抽出児童の実態

本児は運動失調性脳性麻痺、言語コミュニケーション障害を伴った中程度の精神発達遅滞の診断を受けている。

認知面では太田のステージⅢ－2（＋）で、日常的な活動に対する言葉かけによる指示はほぼ理解して動くことができる。要求に関しては両手を2回合わせる身振りをしたり、「(おね) がいい」など語尾を発音したりするが、「～したい」「～してください」「～がええ」と伝えられる言葉は増えてきている。しかし、要求が伝わらないと「あーあ」「おーお」と泣き出すこともある。また、自分から周囲の大人や気になる友だちにかかわろうとすることができるが、いきなり抱きついたり接近しすぎたりして相手との適切な距離をとることができにくい面もある。

情緒面では、初めての場所や活動ではその場から離れようとすることがある。言葉掛けに加え、絵や写真カードによるスケジュールやタイマーを使って、生活に見通しをもって安定して過ごせるようにしている。また、気分の変化が激しく、突然笑い始めて活動ができなくなったり、側にいる人の髪を掴んだり、不機嫌になったりすることが多い。

感覚に関することでは、JSI-R（〈Japanese Sensory Inventory Revised〉 ver.2002 by Atsushi Ota & Reiko Tuchida）を利用した担任への質問による行動観察チェックを行った結果、前庭感覚と固有受容覚において感覚刺激の受け取り方に偏りの傾向が推測される状態であった。

○前庭・固有感覚系では次のような反応が見られる。

◇前庭感覚

- ・ぶらんこなどの揺れる遊具を好み繰り返し何回も行う
- ・長い時間遊具に乗ってぐるぐる回転することを好む
- ・回転物（車のタイヤなど）を見つめることを好む
- ・繰り返し頭を振ったり身体を揺らしたりする

◇固有感覚

- ・床の上で跳ねていることが多い
- ・歯ぎしり、爪かみがある
- ・固い物（砂・靴底のゴム）を噛んでいることがある
- ・他人を叩いたり、髪の毛を引っ張ったりすることがある

○その他にも次に上げるような反応がみられる。

◇触覚過敏

- ・靴下、手袋、帽子を身につけたがらない
- ・長袖や長ズボンを嫌がる
- ・手や足が汚れることを嫌がる

◇聴覚過敏

- ・甲高い音や泣き声があると怖がったり、相手の髪を激しく引っ張ったりする

◇こだわり

- ・給食の配膳など物を置く場所・位置にこだわる

（JSI-R 〈Japanese Sensory Inventory Revised〉 ver.2002 by Atsushi Ota & Reiko Tuchida より）

身体の動きに関しては、歩行時の膝の伸展・右足のかかとの浮きが見られるが、身体を動かすことを好み、よく運動している。年に2回、外部（旭川児童院）のPTの療育相談を実施しているが、しっかり身体を動かして運動すると共に、右足首のストレッチに取り組むように指導を受けた。

## (2) 題材設定の理由

本児は、J S I—Rの行動観察調査により、前庭感覚と固有受容覚において感覚刺激に対して過敏であったり鈍感であったりするような状態であり、触覚・聴覚・視覚において感覚刺激の受け取り方に偏りの傾向が推測される状態であった。そこで、トランポリン・エアポリン・バランスボール・バランスボード・スクーターボードなどを使用して、バランス調整をしたりスピード感や揺れを楽しんだりすることができるようにしたい。また、マットの山や肋木に上ることによって身体にぐっと力が入る経験を積ませたい。前述のような活動に取り組むことで適切な身体反応が引き起こされ、運動発達を促すだけでなく、身体イメージや空間認知、情緒的安定にも良い影響を与えることができると考える。

また、本児は要求や意思表示の発語が増え始めているものの、伝わらないときには、情緒が不安定になりがちである。そこで、要求や意思表示の発語が出やすい遊びの場面を設定し、三輪車を押して欲しいときやエアポリンに入れて欲しいときに「お願いします」と言ったり、エアポリンやトランポリン・三輪車などが好きな遊びをしたいときに「～する」「～したい」と言ったりすることを促したい。また、友だちと一緒に遊ぶ場面を設定し、「代わって」「ありがとう」「どうぞ」など譲ったり譲られたりするときのやりとりができたり、順番を待ったり、「がんばって」など応援したりできるようにし、コミュニケーション能力を高めたい。

## (3) 選定された項目と具体的な指導内容

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求や意志を言葉で伝えることができる。</li> <li>・友だちと「代わって」「ありがとう」のやりとりができる。</li> <li>・不安定な場所を一人で歩くことができる。</li> </ul>
------	--

	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目	(1)情緒の安定に関すること ・気持ちの安定	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること ・人への関心 ・身近な人への要求	(1)保有する感覚の活用に関すること ・前庭覚 ・固有覚	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること ・座位 ・立位 (4)身体の移動能力に関すること ・歩行	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること ・相互理解 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること ・状況に応じたコミュニケーション

具体的な指導内容	・自分で身体各部位の関節を動かしたり止めたり、力を入れたり抜いたりできる。	・不安定な場所で立つことができる。	・言葉で要求したり、意思表示をしたり、状況に応じたやりとりをしたりできる。
----------	---------------------------------------	-------------------	---------------------------------------

## (4) 指導に当たって

本校の知的障害部門小学部では、毎週1授業単位時間、小学部全体で「遊び」の時間を設けている。本年度は、昨年度に引き続き、外遊びグループ（主に運動場）と中遊びグループ（体育館）に分け、児童・教員のメンバーを1年間固定している。

外遊びグループは集団遊びによる社会性やコミュニケーション能力また遊びの企画実行力などの伸長を目指している。

本児は、中遊びグループに属しているが、中遊びグループは、感覚統合療法を生かした遊びができるよう遊具を設定し、児童と教員が1～2対1で指導している。（「遊び（中遊びグループ）」の授業全体についての指導案は別紙）

そこで、本児の具体的な指導内容の「自分で身体各部位の関節を動かしたり止めたり、力を入れたり抜いたりできる」については主に肋木やマットの山を上ったり下ったり、トランポリンを跳んだりして、ダイナミックに身体に力を入れたり抜いたりすることで指導する。また、「不安定な場所で立つことができる」については、バランスボール・バランスボード・トランポリン・エアポリン・スクーターボードを使用し

て、揺れやスピードを楽しむ経験を積むことで、バランスを調整したり重心の移動を感じたりする力を伸長したい。

「言葉で要求したり、意思表示をしたり、状況に応じたやりとりをしたりできる」については、エアポリン・トランポリン・三輪車など本人のしたい遊びを選ばせることで、それぞれの遊びをするときに「～したい」「～する」と言葉で意思伝達させたり、「お願いします」「押してください」「入れてください」と教師に対して言葉で要求をさせたりしたい。また、他の児童と活動の空間を共有することで、教師に対してだけではなく他の児童に対しても「がんばって（応援）」「～しよう（誘い）」「楽しいね（感情共有）」などの言葉をかけたり、「代わってください」「どうぞ」「ありがとう」「ごめんなさい」など、順番を待ったり相手を困らせてしまったりしたときの言葉のやりとりをしたりすることを促したい。

### 3 指導の実際

#### (1) 目標と指導場面・教材と教師の手立て

目標	指導場面・教材	教材に対する実態	行動目標	手立て
・重心移動に合わせて体勢を戻す力を養う。  <b>4環境の把握</b> <b>(前庭覚)</b>  <b>5身体の動き</b>	スクーターボード バランスボード	ボードの上に座り、綱やボードにつかまり、揺れに対して身体を支えようとするが、揺れが大きくなるとボードから下りようとする。	ボードに座り綱やボードを持って、バランスをとることができる。	はじめは座らせ、教師がゆっくりしたスピードでジグザグに綱を引っ張ったりボードを揺らしたりすることで重心移動に合わせて体勢を戻す力を養う。次第に、スピードを上げたり、立たせたりする。
	トランポリン	バーを持ったり、教師と手をつないだりして続けて10回程度、跳ぶことができる。他の児童が入っても一緒に跳ぶことができるが、バランスを崩して座ったり、寝転がったりすることが多い。	色々な揺れ方のトランポリンの上で立位を維持することができる。	教師や他の児童と一緒にトランポリンに入って跳ぶことで、色々な質や量の揺れを経験させ、重力不安を軽減したり、体勢を戻す力を養ったりする。座ろうとしたときには、バーや教師に掴まらせて立たせる。
・身体のイメージを高める  <b>4環境の把握</b> <b>(固有覚)</b>	肋木	両手両足を使い一段ずつ上がる。下りるときに、足の裏の中心でバーを踏むことができず、踏み外すことがある。	バーを見て、手のひらや足の裏の中心でバーを捉えて、上ったり下りたりする。	手足に力を入れたり、手のひらや足の裏でバーを捉えたりすることで筋力や手のひら・足の裏のイメージを高める。
	マットの山登り	四つばいになって、上ろうとするが、滑り落ちることが多い。	自分でマットの山を上ることができる。	腕や手指・脚や足指に力を入れ続けてマットを上ることで、身体のイメージや筋力を高める。
・要求や意志を言葉で伝えることができる。  <b>6コミュニケーション</b>  <b>3人間関係の形成</b>	エアポリン	「したい」「お願いします」「先生（も入ってください）」などの言葉が出ることもある。	「エアポリンしたい」「入れて下さい」を自発的に言える。	好きな遊びをすることによって、「～したい」（意志）や「～してください」（要求）や「楽しいね」（感情）などの自発言語を促す。
	マットの山登り	下にいる友だちをニコニコと見つめ「早く登っておいで」と言うように身体を前後に何度も揺することがある。	友だちに「がんばって」と応援の言葉をかけることができる。	他の児童と一緒に上らせ、教師が「がんばって」と声をかけたり手を伸ばして引き上げたりする姿を見せることで、友だちに対する応援の言葉を知らせる。

・友だちと「代わって」「ありがとう」のやりとりができる。	三輪車 自転車	他の児童が乗っている自転車の側で「自転車する」と何度も言う。	「代わってください」「ありがとう」を自発的に言うことができる。	好きな遊びを他の児童と共有する場面を作ることによって、順番を待ったり、譲ったり譲られたりする時のやりとりの言葉を知らせる。
------------------------------	------------	--------------------------------	---------------------------------	---

(2) 指導の流れ

○学習活動 ●個別の目標 ★個別の支援と手立て ☆全体への支援と手立て

児 ( 年 )	
個別目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言葉で要求・意思を伝えたり、順番を待つときのやりとりをしたり、気持ちを共有したりすることができる。</li> <li>●身体に力を入れる遊びをすることができる。</li> </ul>
学習活動の流れ	活動内容及び個別の目標・支援と手立て
1 あいさつ ○決められた場所に座って待つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>スケジュール表を見てめあてを意識することができる。</u></li> <li>★個人用のマットを使用し、座って待つ場所を意識できるようにする。</li> <li>★挨拶することで、学習の始まりを意識できるようにする。</li> </ul>
2 あそぶ (前半)	<p>○<b>肋木</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>手のひらや足の裏の中心でバーを捉え、上り下りすることができる。</u></li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>4環境の把握 (固有覚)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★手や足を置く位置が分かるように、バーにテープで印を付ける。</li> <li>★バーを見て握ったり足を置いたりするように、「見て」と言葉をかけたり、バーを指差したり、手や足を支えたりする。</li> </ul> <p>○<b>マットの山登り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>手や足でマットを捉え、マットの山を上ることができる。</u></li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>4環境の把握 (固有覚)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>上っている友だちに「がんばって」と言葉をかけたり、「やったね」「すごいね」と喜びを共有したりすることができる。</u></li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>6コミュニケーション 3人間関係の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★友だちに対する言葉を促すために、友だちと一緒に活動させる。</li> <li>★教師が「がんばれ」と応援しながら手を伸ばして引き上げたり、「やったね」「すごいね」と喜んだりして見せることで、応援や励まし・喜びの共有の言葉を知らせる。</li> </ul> <p>○<b>エアボン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>「お願いします」「入れてください」「先生も入ってください」の要求や「楽しいね」などの感情を言葉で伝えることができる。</u></li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>6コミュニケーション 3人間関係の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★本児の好きな遊びをすることで、要求の言葉や意思伝達の言葉を促す。</li> <li>★言葉が出るまで待ち、出ない場合は「おね…」と言葉のはじめを発音することで、「おねがいします」の言葉を促す。</li> <li>★教師や友だちと一緒に活動し、「楽しいね」と言葉をかける様子を見せることで、感情の言葉を知らせる。</li> </ul>
3 休憩 ○決められた場所に座って待つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆BGMを流し、休憩時間であることを意識させる。</li> <li>●個人のマットに座って待つことができる。</li> </ul>
4 あそび (後半)	<p>○<b>スクーターボード・バランスボード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>座位または立位で、動くボードに乗ることができる。</u></li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>4環境の把握 (前庭覚) 5身体の動き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★初めは座位で、ボードや綱に掴まらせ、ゆっくりと動かすようにする。次第に揺れの幅やスピードを大きくしたり、立って乗るように促したりする。</li> </ul>

	<p>○三輪車</p> <p>●「お願いします」「押してください」の要求を言葉で伝えたり、「代わってください」「ありがとう」「どうぞ」のやりとりをしたりすることができる。</p> <p><b>6コミュニケーション 3人間関係の形成</b></p> <p>★本児の好きな遊びをすることで、要求の言葉や意思伝達の言葉を促す。  ★言葉が出るまで待ち、出ない場合は「おね…」と言葉のはじめを発音することで、「おねがいます」の言葉を促す。  ★他の児童が三輪車を使用している時に三輪車に注意を向けさせ、「代わって」「ありがとう」と言う場面を作る。</p>
	<p>○トランポリン</p> <p>●他の児童と一緒にトランポリンに入っても立位を維持することができる。</p> <p><b>4環境の把握（前庭覚） 5身体の動き</b></p> <p>★トランポリンは好きな活動なので、「トランポリンしたい」という意思伝達の言葉を促したい。言葉が出るまで待ち、出ない場合は「トラ…」と言葉のはじめを発音することで、続きの言葉を促す。  ★立位が保つことができるようにバーを持たせる。</p>
5 あいさつ ○決められた場所に座って 片付けが終わるのを待つ	<p>★個人用のマットを使用し、座って待つ場所を意識できるようにする。  ★挨拶することで、学習の終わりを意識できるようにする。</p>

(3) 評価

題材名	評価の観点	教師の支援による評価基準	
肋木	・バーを見て、手のひらや足の裏の中心でバーを捉えて、上ったり下りたりすることができる。	身体プロンプト	△
		バーを指差し	○
		支援無し	◎
マットの山登り	・自分でマットの山を上ることができる。	身体プロンプト（引っ張りあげる）	△
		手に掴ませる（引っ張らない）	○
		支援無し	◎
	・他の児童に「がんばって」と応援の言葉をかけることができる。	手を伸ばして「がんばって」とモデリング	△
		手を伸ばして「が…」	○
		支援無し（自発）	◎
・「よかったね」「やったね」と喜びを共有することができる。	「やったね」「よかったね」とモデリング	△	
	「や…」	○	
	支援無し（自発）	◎	
エアポリン	・要求や意思を自発的に言葉で伝えることができる。	「入れてください」「エアポリンしたい」とモデリング	△
		「入れ…」 「エア…」	○
		支援無し（自発）	◎
スクーターボード バランスボード	・ボードに座り、ロープやボードを持って、バランスをとることができる。	ゆっくり動かす	△
		ゆっくり左右に（ジグザグ）動かす	○
		速く激しく（ジグザグ・回転など）動かす	◎
三輪車	・要求や意思・「代わってください」「ありがとう」「どうぞ」など自発的に言葉で伝えることができる。	「代わってください」「ありがとう」「押してください」「どうぞ」とモデリング	△
		「か…」 「あ…」 「お…」 「ど…」	○
		支援無し（自発）	◎
トランポリン	・他の児童と一緒にでも立位を維持することができる。	身体プロンプト（立ち上がらせる。手をつなぐ）	△
		トランポリン内は児童1人にする	○
		支援無し	◎

学習中にその都度、できたことを称揚したり、スケジュール表を兼ねた評価表を用いて、活動が替わる場面で教師と一緒にできたことを振り返ったりできるようにすることで、達成感を味わわせたい。



#### 4. 児童の変容

具体的な指導内容に沿って、児童の変容をまとめる。

具体的な指導内容	・自分で身体各部位の関節を動かしたり止めたり、力を入れたり抜いたりできる。
----------	---------------------------------------

固有覚に働きかける活動として「マットの山登り」と「肋木」に取り組んだ。

「マットの山登り」は、跳び箱の上にマットを掛けたもので、約1.5mの高さの傾斜を上ったり下ったりする活動である。引っ張り上げたり、掴まって上ったりできるようにロープを垂らしている。

一学期中（計5回）は、つま先に力が入らず、ずるずると滑り落ちることが多かった。また、マットやロープを掴んで体重を支えることができなかった。

二学期になり教師の手を自分で掴んで上ることができるようになった。ロープと教師の手を同時に掴むようにさせたり、引っ張りあげていた力をゆるめたりすることで、次第にロープやマットを掴んで自力で上まで上ることができるようになった。

「肋木」は、上るときには手元を見るが、下るときには手元や足元を意識しないことが多く、掴み損ねたり、踏み外したりしていた。そこで、肋木にテープを貼り、握ったり足を置いたりするときの目印になるようにし、「見て」と言葉をかけたり指差したりして注目させるようにした。次第に、言葉をかけたり指を差したりするとテープを見ることはできるようになったが、掴み損ねたり、踏み外したりすることは依然として多い。

具体的な指導内容	・不安定な場所で立つことができる。
----------	-------------------

前庭覚に働きかける活動として「スクーターボード」や「バランスボード」「エアポリン」「トランポリン」に取り組んだ。スピード感や回転や揺れが楽しめるこれらの活動を好んだが、指導を始めた当初は、立位や座位を保つことができにくく、ボードから落ちたり、寝転がって楽しんだりすることが多かった。

そこで、ゆっくりと回転させたり揺らしたりすることから始めて、徐々にスピードを上げたり、揺れを大きくしたりするようにした。また、「トランポリン」では、座ったり寝転んだりすると、すぐバーを掴ませて立たせるようにした。

次第に、スピードや回転や揺れが激しくても、ロープやボードやバーに掴まり、座位や立位を保てる時間が長くなってきた。

具体的な指導内容	・言葉で要求したり、意思表示をしたり、状況に応じたやりとりをしたりできる。
----------	---------------------------------------

好きな遊具を用意することで、「〇〇したい」などの意思表示や「お願いします」などの要求の言葉を自発的に表出できるようにした。はじめは、指を差したり、教師の顔を見てしてくれるのを待ったりしていたが、教師がモデリングしたり、遊びの名前を知らせたり、「お（ねがいします）」ときっかけを作ったりすることで、「エアポリンしたい」「お願いします」「押してください」「入れてください」と自発的に言うことができるようになった。

また、教師に対してのみではなく、友だちとかかわって、順番を代わったり応援したり喜び合ったりできるように友だちと一緒に活動する場面を設定した。

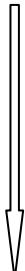
「三輪車」では、教師がモデリングし、順番を代わって欲しいときや代わってもらったときの言葉を「代わって」「ありがとう」と繰り返し知らせた。他の児童が三輪車に乗っていると、三輪車以外の遊びを見つけて遊んでしまい、自発的に「代わって」と言うことは少ない。しかし、授業時間外に自分のいすに他の児童が座っているときに「代わって」と言ったり、してもらったときに「ありがとう」と言ったりするなど自発的に表出できる姿が見られるようになってきた。

「マットの山登り」では、教師が手を差し伸べて「がんばって」と言葉をかけて見せることで、次第に「がんばって」「助けて」と言いながら上ったり、友だちが掴んでいるロープを上から引っ張って「がんばって」と友だちに言葉をかけたり「やった～！」と一緒に喜んだりできるようになった。

その他にも、「楽しいね」「先生も入って」「〇〇ちゃん（一緒に）しよう」など自発的に表出できる言葉が増えてきている。

【児童の変容】 資料

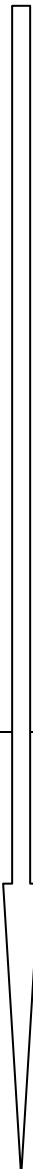


1学期 (5/2~6/13 全5回)

具体的な指導内容	・自分で身体各部位の関節を動かしたり止めたり、力を入れたり抜いたりできる。	・不安定な場所で立つことができる。	・言葉で要求したり、意思表示をしたり、状況に応じたやりとりをしたりできる。
	↓	↓	↓
<p>1回 5/2</p> <p>マットの山登り △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つばいになって登ろうとするがずるずると滑って落ちる。</li> <li>・Tが手を握って上から引っ張ると足を踏ん張り登る。</li> </ul>	<p>エアポリン △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中に寝転がって揺れを楽しむ。立ち上がらない。</li> <li>・座位で腰を支え揺らすと意識して体勢を戻すことができた。</li> </ul>	<p>自転車 △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の方へ行く。Tの模倣で「自転車 する」と言う。</li> <li>・自転車にまたがりTの顔を見て訴えるような目を見る。Tの模倣で「押して下さい」と言う。</li> </ul> <p>エアポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入る時に「お願いします」</li> </ul>	
<p>2回 5/23</p> <p>肋木 △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり握り一番上まで上る。</li> <li>・下りるときに足を踏み外す。足を支えバーを踏ませる。</li> </ul>	<p>シーツ △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーツの上に座らせ、それをTが引っ張る。しっかりとシーツに掴まりバランスを取る。</li> </ul>	<p>自転車 △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車に誘う。Tの模倣で「自転車 する」と言う。</li> <li>・Tの模倣で「押して下さい」と言う。</li> </ul>	
<p>3回 5/30</p> <p>マットの山登り △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つばいになって上ろうとするがずるずると滑って落ちる。</li> <li>・Tが手を握って上から引っ張ると足を踏ん張り登る。</li> </ul>	<p>トランポリン △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めは座位で揺れを楽しむ。両手をつないで一緒に立位で20回続けて跳ぶ。</li> </ul>	<p>マットの山登り △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットの上から下をのぞき込んで友だちが上る様子を見る。</li> </ul> <p>トランポリン ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生」と一緒に跳ぶように誘う。</li> <li>・「楽しいね」と笑顔で言う。</li> </ul>	
<p>4回 6/6</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>エアポリン △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中に寝転がって揺れを楽しむ。立ち上がらない。</li> <li>・座位で腰を支え揺らすと意識して体勢を戻すことができた。</li> </ul>	<p>エアポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お願いします」「先生 入ってください」と言う。</li> </ul>	
<p>5回 6/13</p> <p>肋木 △</p>	<p>トランポリン △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座ったり寝転んだりして揺れを楽しむ。</li> </ul>	<p>トランポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お願いします」と言う。</li> </ul>	

2学期 (9/12～)

具体的な指導内容	・自分で身体各部位の関節を動かしたり止めたり、力を入れたり抜いたりできる。	・不安定な場所で立つことができる。	・言葉で要求したり、意思表示をしたり、状況に応じたやりとりをしたりできる。
	↓	↓	↓
6回 9/12		<p>スクーターボード ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tがロープを引っ張り、ゆっくりジグザグに走らせると、ロープにつかまり「イエ～イ」と楽しむ。</li> </ul> <p>トランポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーを持ち激しく跳ぶ。時々座ろうとするので立ち上がらせる。</li> <li>・他の児童が入ってきてもバーを持ち続けて跳ぶ。</li> </ul>	<p>三輪車 ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これしたい」と言う。</li> <li>・「代わってください」と「かわ・・・」の促しで言う。「待って」と言われTと手をつないで待つ。Tの模倣で「ありがとう」と言う。</li> </ul> <p>トランポリン ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これしたい」と言う</li> </ul>
7回 9/19	<p>肋木 △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり握り一番上まで上る。</li> <li>・下りるときに足でバーを探り踏み外す。足を支えバーを踏ませる。</li> </ul>	↓	<p>トランポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トランポリンする」と言う。</li> </ul> <p>三輪車 ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三輪車したい」と言う。</li> <li>・「代わってあげようね」と声をかけると「いいよ」と言う。</li> </ul> <p>エアポリン ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入れ・・・」と促すと「入れてください」と言う。</li> <li>・「先生も入って」と言う。</li> </ul>
8回 9/26	<p>肋木 △</p>	↓	<p>エアポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入れてください」「先生も入ってください」「一緒にしよう」と言う。</li> <li>・「楽しいね」と声をかけると「楽しいね」と何度も言う。</li> </ul>
9回 10/3	<p>肋木 △</p> <p>マットの山登り ◎</p> <p>マットを掴んだりロープを掴んだりして上まで上がる。</p>	↓	<p>エアポリン ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肋木とトランポリンに誘うが「行かない」と言う。</li> </ul>



<p>10回 10/17</p>		<p><b>スクーターボード</b> ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tがジグザグにロープを引っ張る。スピードを上げるとボードから落ちる。</li> </ul> <p><b>トランポリン</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーを持ち跳ぶ。時々座ろうとするので立ち上がらせる。16~20回跳ぶ。</li> <li>・3・4人の他の児童が入ってきててもバーを持ち続けて跳ぶ。</li> </ul>	<p><b>マットの山登り</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tが「がんばって」と手を伸ばして見せると「がんばって」と言う。</li> </ul> <p><b>エアポリン</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これする」と言う。「エアポリン」と促すと「エアポリンする」と言う。</li> <li>・「入れてください」「先生 入ってください」と言う。「楽しい」と何度も言う。</li> </ul> <p><b>自転車</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tの模倣で「代わってください」と言う。代わってもらえない。</li> </ul> <p><b>箱車</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「乗りたい」と言う</li> <li>・Tの模倣で「乗せてください」「ありがとう」「押してください」と言う。</li> </ul>
<p>11回 10/31</p>		<p><b>スクーターボード</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグザグや回転を激しく行う。しっかりロープに掴まって、「きゃ～」と喜ぶ。</li> </ul>	<p><b>マットの山登り</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「助けて」「がんばろう」「やった～！」と自発的に言う</li> </ul> <p><b>エアポリン</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エアポリンしたい」「中に入れてください」「先生も入って」「楽しいね」と自発的に言う</li> </ul> <p><b>自転車</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自転車したい」とTの模倣で言う</li> <li>・「押してください」と自発的に言う</li> </ul> <p><b>箱車</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tの模倣で「乗せてください」「ありがとう」「押してください」と言う</li> </ul>
<p>12回 11/7</p>	<p><b>肋木</b> △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下りるときにテープは見るがそこに足をおろすことができず「お願いします」と言う。足を支えてテープの上に置かせる。</li> </ul>		<p><b>マットの山登り</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが掴んで上っているロープを上から引っ張って「がんばれ」と言う</li> </ul> <p><b>エアポリン</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お願いします」「先生入ってください」「○○ちゃん 一緒にしよう」と自発的に言う</li> </ul> <p><b>自転車</b> ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「代わって」と自発的に言うが、代わってもらえず隣の三輪車に乗る</li> <li>・「これ のる」と自発的に言う</li> <li>・「お願いします」と自発的に言う</li> </ul>

1 開会行事(14:30~)

- ・校長挨拶
- ・参加者紹介、自己紹介(本校職員も含む)

2 本校の自立活動の取り組み(14:41~)

- 資料 参
- 知的障害部門小学部の取り組みを中心に

3 実践報告(14:57~)

- 資料 参
- ・対象児の実態について(検査結果など)
  - ・対象児について…自立活動の側面からの課題分析

↓

指導目標・具体的な指導内容の選定  
(担任・保護者・専門的指導員それぞれの思いを基に)

↓

対象児の実態を基に、「あそび」の授業で集団における自立活動の指導を行うことにした

- ・「あそび」の授業について(外グループ・中グループ):中グループの活動を中心に
- ・指導の実際 ビデオ視聴(各活動で)・児童の変容・今後の目指す姿も含む

指導内容は、目標が達成できたかを目で見て判断できる内容を選定

4 意見交換(15:55~) ○質問 ◇意見

○目標を具体的にしている、指導が分かりやすかった。

般化について

不安定な場所で安定して歩くことについて、日常生活への般化は?

→日常生活では、不安定な場所をあえて歩くことはない、どの程度できているかは不明。あそびの時間で、重たい物を持って歩くことからこの目標に取り組んでいきたいと考えている。

指導目標と感覚的なことについての関連性について

5 指導助言(15:57~)

自立活動の基本的なことについての解説

- ・自立活動の意義と基本 etc 自立活動の指導・解説

個々の: 個別活動での指導が中心だが、実態やねらいに応じて集団での指導を行っても良い。

個々の自立活動の目標をかなえるために集団の場を活用しても良い。集団ありきの指導ではなく、個々の目標を前提に指導集団を検討する必要がある。

- ・今回の授業では、集団の中での個別への対応が十分できている
- ・先生へのアンケート:それぞれの見立てからそれぞれの感じる重点目標があつて当然。それぞれの見立てを基に検討したり、目標のすりあわせをしたりしていくことが大切。特定の行動に対して、様々な手立てを検討し、試し、成長を促すためにも意見を出し合うことが大切。
- ・髪を引っ張る行動について  
興奮すると引っ張る? 引っ張ったことへの他者の反応を楽しんでいる?  
→教師と一対一の状態で、指導してみるのはいかがでしょうか
- ・他者とのやりとり  
タイミング 自転車なら使っている子が終わる瞬間に声かけをしてみる

まず、自分の要求が通りやすい状況（教師と子どもの一対一の状態など）での指導から始めれば、自分の要求が叶う経験ができるのではないかと。

- ・児童の反応を引き出す

「もっとしたい」と思う瞬間に促しの声かけをするようにしたり、児童の目線に立って楽しみながら活動できるようにしたりすると反応を引き出せると思われる。

- ・評価も大切。でも評価だけにこだわらないように。

## 6 閉会行事

- ・副校長挨拶